

未審査の遺伝子組換えトウモロコシ(DAS32) の微量混入に関する再発防止策

平成20年6月11日
農林水産省 消費・安全局
畜水産安全管理課

未審査GMトウモロコシの微量混入の発生

1. 本年2月22日、米国大使館から安全性未審査の遺伝子組換えトウモロコシ「DAS59132」(以下、DAS32)が、米国内において誤って栽培されていたことが判明したとの報告
2. この報告を受け、当省は、米国政府及びダウ社に対して、安全性等に関するさらなる情報提供と迅速なリスク低減措置を要請
3. 2月23日には、当省及び厚生労働省より、プレスリリースを発出
(<http://www.maff.go.jp/j/press/syouan/tikusui/080223.html>)

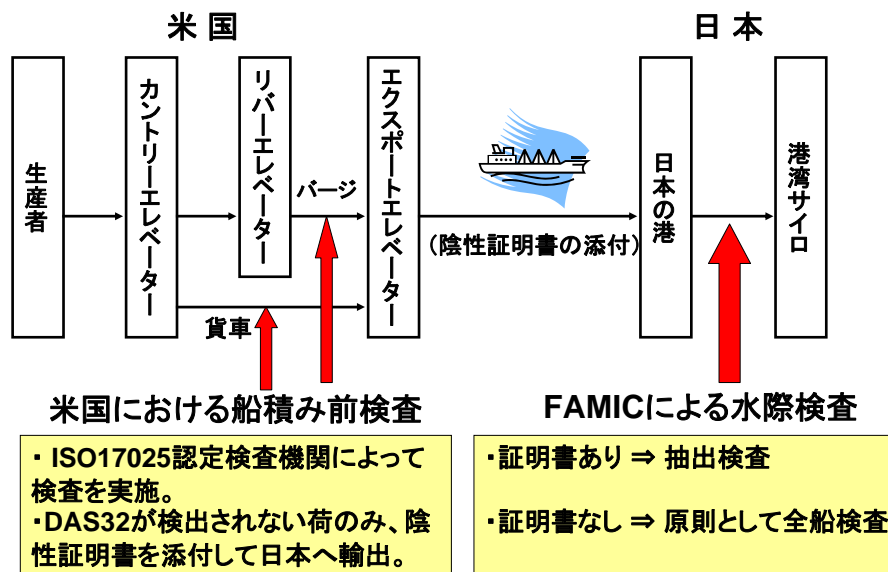
DAS32に関して講じられたリスク管理措置

過去の類似事例(Bt10)を参考にして、以下のリスク管理措置が講じられた

1. ダウ社は、DAS32が混入している可能性のある2008年用種子を速やかに回収
2. ダウ社と米国の輸出企業が協力し、船積み前検査を開始(6月6日までに5690検体を検査し、陽性は5)
3. 日本でも分析法の妥当性確認を行い、(独)農林水産消費安全技術センター(FAMIC)による水際検査を開始

2

DAS32に関する検査フロー



検査結果及び発生原因の調査

1. FAMICによる水際検査では、すべて陰性
(平成20年6月11日時点)
 - (1) 陰性証明書が添付されている船：8点
 - (2) 付いていない船：21点
2. ダウ社及び米国政府による原因究明では、これまでのところ、微量の花粉交雑によると推察

4

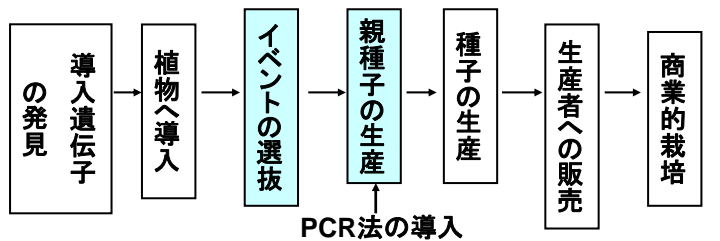
ダウ社による再発防止策

花粉飛散(移動)の可能性の抑制

- ・ほ場区画の出入等に関する作業手順の見直しと社内研修
- ・ほ場の区画設計の見直し

品質管理システム及び検査方法の見直し

- ・研究開発から商業用種子生産、販売に至る品質管理システム及び検査方法の見直し
- ・親種子生産における品質管理を強化するため、PCR法を導入



第三者機関による査察

米国バイテク業界の再発防止への取組み

- ◆ BIO (Biotechnology Industry Organization <http://bio.org/>)
農業、医薬品、環境分野等のバイテク企業1,150社からなる世界最大のバイオテクノロジーに関する業界団体
- ◆ ETS (Excellence Through Stewardship) プログラム
BIOは、本年中にプログラムを完成すべく、作業を進めている
(プログラムの目標)
 - ・商品のライフサイクル全ての過程において、遺伝子組換え製品の品質を保つこと
 - ・各国の規制を完全に遵守すること
 - ・円滑な流通を促進し、貿易上の混乱を回避すること

6

ETSプログラムの特徴

- ◆ 品質管理、ほ場試験、事故対応等の指針を作成
- ◆ バイテク企業各社は、第三者機関による査察を受入れ
- ◆ BIOは査察の結果をウェブサイトで公表
- ◆ 会員だけでなく学術機関や種苗生産者に対しても、プログラム実践を奨励
- ◆ 研究開発から販売終了まで、全てのライフサイクルを対象



7

輸出入企業による危機管理

- ◆ JFTA(飼料輸出入協議会)とNAEGA(北米穀物輸出協会)は、今回の事件発生後、
 1. Bt10の例を参考にして船積み前検査に関するルールを作成
 2. DAS32が検出された荷については、日本へ輸出しない
 3. 検出されない荷については、陰性証明書を添付
- ◆安全上の問題が発生した際、輸出入企業の果たす役割は極めて大きい。
⇒同様な混入事案に備えて、危機管理マニュアルを作成予定

8